



# Weekly News

## 龍ヶ崎中央ロータリークラブ

2011.12.02

No.00682

R I District 2820 CLUB 50504

会 長：城出鴻二郎

幹 事：横澤啓二

連絡先：TEL 0297-66-3258 FAX 0297-66-3280 <http://rcrc.web5.jp>

事務所：〒301-0032 茨城県龍ヶ崎市松葉 5-12-6

例会場：〒301-0857 茨城県龍ヶ崎市泉町 1592-77 (ザ・ゴルフクラブ竜ヶ崎)



### 本日のプログラム

【総 会】

総 会  
次年度役員選出

### 次回のプログラム

【委員会報告】

奉仕事業  
社会奉仕委員会

### 12月の主な行事：家族月間

### 第 681 回例会報告

点 鐘：長友芳郎副会長

ロータリーソング：それでこそロータリー

ゲ ス ト：なし

ピ ジ タ ー：秋田様、佐藤様(竜ヶ崎 RC)

#### 副会長報告：長友芳郎

■竜ヶ崎クラブの秋田さん、佐藤さんようこそ  
2003年小惑星探査機「はやぶさ」が目標の小惑星「イトカワ」に向け打ち上げられた。



「イトカワ」に接地してサンプルリターンを行って2010年イトカワの表面の資料をカプセルに収納し、探査機自身は燃え尽きてカプセルを放出し地球に届けた。

(サンプルリターンとは、分析装置を運ぶかわりに、試料を地球に持ち帰る方法で、最も難しい最終段階の探査方法です。試料がたとえ少量でも、最新の精密な分析を行うことができます。「はやぶさ」は、革新的なイオンエンジンを採用し、高度の自律機能で着陸させ、微少重力下で試料を採取し、カプセルを惑星間から直接に大気圏に突入させて試料を回収する方法で、これを可能にしています。「はやぶさ」は、一気にNASAをも超える世界初への挑戦です。

鍵となる技術は、先端産業を支えるプラズマ反応炉や、視覚をもつロボット技術、耐熱材料の開発、省電力化など、随所に応用が期待されていて、「はやぶさ」はまさにハイテク宇宙船といえます) JAXA 説明：この間様々なエンジントラブル、燃料漏れや通信の途絶えによる探査機の行方不明などに見舞われたが、管制室や探査機に関わる多数の人たちの協力と団結と夢に向けた諦めない努力によって、世界初偉業を成し遂げた事は日本人

として非常に素晴らしい、誇りに思える事だ。  
カプセルの資料の初期分析の成果の一部が平成 23 年 8 月 26 日発行の米科学誌「サイエンス」において表紙を飾るとともに、6 編の論文が掲載されたがこれは、小惑星探査機「はやぶさ」による小惑星「イトカワ」の近傍からの観測成果が平成 18 年 6 月に、太陽観測衛星「ひので」が平成 19 年 12 月に月周回衛星「かぐや」が平成 21 年 2 月にそれぞれ特集され表紙を飾って以来の画期的なことだそう。今後もはやぶさの計画は続くようだが、仕分けによる予算がお粗末な 3,000 万と聞くと、世界をリードするような技術には、目先の利益のみを考えず、どんどん予算をつぎ込んでこれぞ他国にまねできない日本の技術というものを生み出していくことが日本の誇りとなり、若者の希望につながっていくのではないか。

#### 本日のプログラム (会員卓話)

英語のなかに歴史を読む (1)

横澤啓二会員

■深津絵里がカナダのモントリオール映画祭 (2010 年) で最優秀女優賞を受賞した映画「悪人」の英語タイトルは VILLAIN であった (図 1)。辞書で villain



を引くと、たしかに真っ先に「悪人」「悪漢」「悪役」「犯人」などの好ましからざる訳語が飛び込んでくる。しかし、villain の vill は荘園や農場を意味するラテン語に由来し(「村落」を意味するヴィレッジ [village] の vill も同じ)、villain とは中世のイギリスで領主が所有・支配していた荘園の住民＝農奴を意味したにすぎず、本来は何ら悪いイメージのない言葉であった。農奴は自分の家族を養うために荘園領

主から畑（農奴保有地）を借りていたが、その見返りとして週に 2—3 日は領主が直接経営する畑（領主直営地）で働く義務が課せられ、農奴の存在が荘園制にもとづく封建社会を成り立たせていた。農奴保有地の生産物は基本的には農奴のものであったが、領主直営地での労働（賦役）の成果はすべて領主のものになったから、農奴にしてみれば領主直営地での労働には身が入らず、機を見て手抜きをしようと思うのは当然といえば当然の成り行きであった。

■そこで領主は、農奴が領主直営地で怠けないよう監督する管理人を選任するようになった。図2は農奴の刈り入れ作業を監視している管理人の様子を描いたものであるが、怠ける農奴を叩くために手にした棒は、領主が力づくで農奴を働かせていたことを象徴している。荘園の規則や慣習を犯した者は、見せしめのため、さらし台やさらし枷の罰を受け、一日に何時間も道端や辻でさらし者になった（図3）。さらし台に立たされたり、さらし枷に足を挟まれて公衆の面前で辱めを受けた農奴は少なくない。こうして、みずからの収益には全く結びつかない領主直営地での賦役労働を負わされた農奴たちは、隙あらば絶えずその義務から逃れようとする存在であった。それゆえ領主の目には、農奴は荘園の取り決めや慣習を破りがちな「悪人」として映ったのである。そこから villain にはしだいに「悪人」の意味が付加されていき、今では「農奴」の意味は後退して「悪人」の意味が全面にでるようになった。「悪人」を意味する villain には、支配者である遙か昔の荘園領主の農奴に対する思いが反映しているのである。

■領主はまた、領主が独占的に所有する製粉用の水車の使用を荘園の住民に強制し、使用料を取り立てていた。実際の粉挽き作業は領主に委託された粉屋（ミラー miller）がおこなうのだが、水車小屋（図4）に持ち込まれるときには「麦」であったものが作業が終われば「粉」に形を変えているのをいいことに、粉屋は、製粉した麦粉の一部をしばしば親指（thumb）で搔きだして掠め取っていた。14世紀の詩人チョーサーも『カンタベリー物語』のなかで、挽き終えた粉を半分もくすね、それでパンをつくるよう女房にいつけている「悪党シムキン」と呼ばれる粉屋を描いている。そんなわけで中世の粉屋の評判は芳しいものではなかったから、そこから Every honest miller has a golden thumb. という諺が生じた。表面上は「立派な粉屋にはみな金の親指がある」という言い回しだが、その真意は、「粉屋はみな不正直者ばかり（親指を使って粉をくすね取る）」ということなのである。そして、この諺がもとになって、miller's thumb（粉屋の親指）といえば、「金のなる木」「ドル箱」を意味するようになった。さらに、もっと露骨な The miller is a thief（粉屋は盗人）とい

う慣用句も生まれた。

粉屋と同じように、鋤や鎌など鉄製の農具を製造・修理する鍛冶屋（スミス smith）も中世の農村にとっては真っ先に必要とされる職業であった。そして分業の発達とともに鍛冶屋や粉屋をはじめとする専門の職業が派生してくると、「鍛冶屋のジョン」とか「粉屋のウィリアム」という呼び方が広まっていき、やがて職業名が苗字として通用するようになった。今でもイギリスで一番多い苗字は鍛冶屋を意味するスミスで、粉屋のミラーは三番目に多い。このほか、ベイカー（Baker パン屋）、クーパー（Cooper 桶屋）、カーペンター（Carpenter 大工）、カートライト（Cartwright 車大工）、メイソン（Mason 石屋）、テイラー（Taylor 仕立屋）、ウェブスター（Webster 織布工）、ブッチャー（Butcher 肉屋）、シェパード（Shepherd 羊飼い）など職業にもとづく苗字は非常に多い。ちなみにイギリスの元女性首相のサッチャーは屋根葺き屋（thatcher）、元アメリカ大統領のカーターは荷車屋（carter）に由来している。

■ところで、荘園の農地は短冊状の細長い畑が集って成り立っていた（図5）。この細長い畑ひとつが一般的に1エーカーの広さ（長さ200m、幅20mぐらい）をもち、隣接する畑とは犁残しの畔溝（furlow）で区別されていた。そのため、畔溝（furlow）の長さ（long）という言い回しから furlong（ファールロング＝約200m）という距離を示す単位が生じた。

この単位は、日本ではもっぱら競馬で使われており、昨秋、三浦皇成騎手と結婚したタレントのほしのあきは、交際中に「結婚まで何ハロン？」とインタビューされているが（デイリースポーツオンライン2010年11月13日）、この「ハロン」が furlong のことである。競馬場にはゴールまでの残り距離を示すハロン棒という標識が立っており（図6）、テレビの競馬中継で「ゴールまであと1ハロン！」などという実況を耳にすることも多い。こんなところにも、遙か昔のイギリス農村の生活のありようが潜んでいるのである。



## 本日出席状況

会 員	20 名	出席率 55.00%	
出 席 者	8 名		
出席免除者	2 名	亀尾会員	吉澤会員
(定款第9条3節a)	1 名	馬場会員	
Make-up	3 名	城出、荒木、米島会員	

例会の欠席は、**水曜日 AM:10:00 までに川上副 SAA TEL 090-3497-0383 に連絡して下さい。**